

## 中間支援組織が地域価値の共創に果たす役割 -石垣市の移住・定住促進を事例に-

大和里美（奈良県立大学）

Keyword：移住・定住、中間支援組織、S-D logic、価値共創

### 【研究の背景と目的】

新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の発生と感染拡大は、テレワークを導入する企業の増加と働く場所に対する意識の変化を生み出している。場所を選ばずに仕事ができるようになれば、企業のオフィス需要が縮小されるだけでなく、働く側も通勤の便を考慮して都市に住む必然性が低下し、住む場所を以前より自由に選べるようになる。また人が密集する都市部では感染の危険性も高く、家賃が安く住環境のよい場所への移住希望者が増える可能性が高い。COVID-19による社会の変化によって、地方への移住者が増えても地域に溶け込んで定着しなければ地域の活力には繋がらず、元の住民との間で摩擦が生じた場合はコミュニティに負の影響を与えることもある。人口減少や東京への一極集中が進む中で、多くの自治体では、住まいや就業、子育てなど移住者を支援する様々な対策を講じてきたが、移住者がその地域に定住・定着するためには、金銭的な支援に加え、地域との関係構築を支援する仕組みを工夫することも重要である。

八重山地方の中心である石垣市は、近年は大型クルーズ船の寄港地としても注目されている人気の観光地である。また観光地としてだけでなくブランド総合研究所が毎年発表している「地域ブランド調査」の市区町村魅力度ランキングにおいても2018年13位、2019年14位と上位にランキングされており<sup>1)</sup>、年間を通じた温暖な気候や美しい自然、独自の文化などに惹かれ移住を希望する人も多い。その一方で、移住しても定住に至らない人も多く、特に沖縄への移住ブームが起こった2001年～2007年頃には、移住先地域についての理解不足や地域住民との軋轢などによって多くの人が短期間で離島した<sup>2)</sup>。また移住者と住民との軋轢は、移住者受入れに懐疑的になる地域を生んだ。このような経験から、石垣市では、定住に繋げることを目指して石垣の実態を理解した上で移住してもらえることを政策の基本としており、市から委託を受けた「一般社団法人ゆんたくガーデン（以下、ゆんたくガーデン）」が、移住希望者や移住者への情報提供・住民との交流のためのイベントの開催などを通じて、移住促進だけでなく定住・定着を促す支援を行っている。

本研究では、石垣市におけるゆんたくガーデンの取組み

を事例として取り上げ、サービス・ドミナント・ロジック（Service dominant Logic：以下、S-D logic）の価値共創の視点から、移住・定住の促進において自治体と地域住民を結ぶ中間支援組織が果たす役割について考察する。

### 【研究方法】

石垣市の移住・定住施策の基本となる「石垣市人口ビジョン」を実現するために策定された「石垣市移住・定住支援計画（平成29年～33年度）」から石垣市の人口減少対策と移住・定住支援についての概略を把握した上で、移住・定住促進の担当部署である石垣市企画政策課に対して、移住・定住の現状と移住・定住促進施策における基本的な方針、支援計画の進捗や新型コロナウイルス感染症による計画実施への影響などについて、2017年2月、2019年2月、2020年7月の3回にわたり聞き取り調査を行った。

また、ゆんたくガーデンの活動について理解するため、2019年2月と2020年7月に、ゆんたくガーデンの代表理事に対して、活動内容や実績、移住希望者や受入地域の現状などについて聞き取り調査を行った。併せて、ゆんたくガーデンが主催したイベント（2019年6月）と2020年6月に実施された2回のリモートによる移住相談室において、イベントに参加した移住者と地域住民、相談室に参加した移住希望者に対してインタビューを行った。

### 【調査結果】

#### 1. 石垣市の人口動向

石垣市の人口は、2019年10月1日現在48,132人で、全国的には減少に転じた2009年以降も増加傾向にある<sup>3)</sup>。人口増加の要因は、出生率の高さにあり、2017年の合計特殊出生率<sup>4)</sup>は、全国1.43、全国で最も高い沖縄県1.94、石垣市1.97と県全体の数値を超える数値となっている<sup>5)</sup>。しかし近年、未婚化や晩婚化が進み離別率も上昇しているため、今後合計特殊出生率は低下し、死亡数の増加と相まって現在プラスで推移している自然動態はマイナスに転じることが懸念されている。

一方、転出と転入による社会動態については、増加と減少を繰り返しながら推移している（図1）。年齢階層別では男女ともに15～19歳、20～24歳で、月別では毎年3月に

大幅な転出超過となっていることから、高校卒業に伴う進学や就職が転出の主な理由と考えられる。

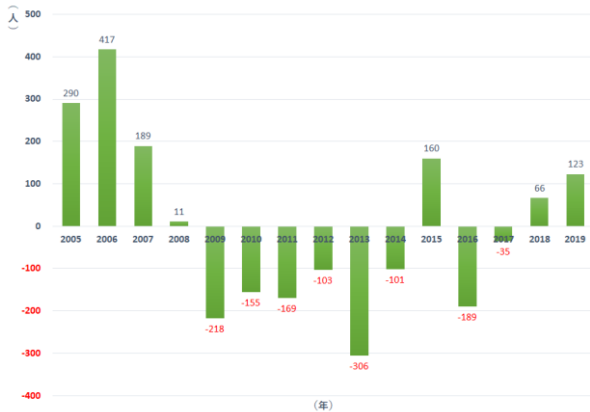


図1 石垣市の社会動態（転入・転出）の推移  
出所：「沖縄県人口移動報告年報」を基に筆者作成

## 2. 石垣市の移住・定住支援施策

石垣市は、移住・定住先としての認知度を高め、人口の社会増減がゼロ以上の状態を維持することを目指して、2017年に「石垣市移住・定住支援計画（平成29年～33年度）（以下、支援計画）」を策定した。この計画は、移住・定住支援の具体的な施策を示すもので、「石垣市移住・定住支援協議会」によって定期的に達成度の検証が行われ、検証を反映して重要業績評価指数（以下、KPI）と目標値の見直しが行われている。

図2は、支援計画が掲げる基本方針と施策を記したものである。支援計画に従って、2017年から移住・定住を促す取組みが行われているが、2020年7月時点での平均達成率は45%となっている。(1)から(4)の4つの方向性のうち、(1)移住希望者への効果的な情報発信などは、ほぼ予定通りにKPIの目標値を達成している一方で、(2)移住者と地域をつなぐネットワーク構築のKPIの1つである「各地域・集落ごとの世話役の配置」や(3)移住やその後の仕事・住まいの支援に関する空き家バンクに関連する目標値については、計画策定前に想定した状況とは異なった現状があり、目標値を変更する必要があるが生じている。

例えば、各地域・集落ごとの世話役の配置については、計画策定時には各地区の公民館長に依頼することを想定していたが、特に移住者が多い地域では、必ずしも公民館が地域の意見を代表するわけではなく、公民館長によって移住促進に対する考え方も違うため、依頼するのが

難しい場合もある。また空き家バンクについても登録件数は1件だけとなっている。修理しないと住むのが難しい家や住む人がいなくても仏壇が残っている、あるいは荷物がそのままになっているという家が多いことが、登録件数が増えない主な理由と考えられる。また問い合わせってくる側も一般の不動産会社からの紹介よりも安く古民家が借りられると思っている場合が多く、貸し手と借り手のマッチングが難しいのが実情である。

地域・産業等を促すための具体的な施策	基本方針	○地域コミュニティの維持・存続 ○人材が不足する分野の担い手の確保
	(1) 移住希望者への効果的な情報発信	・移住フェア・移住相談会の開催 ・移住ガイドブックの作成 ・企業ガイドブックの作成 ・移住・定住ポータルサイトの設置 ・移住体験ツアーの実施
	(2) 移住者と地域をつなぐネットワークの構築	・移住コンシェルジュの養成 ・移住者受入体制（地域のネットワークづくり）の構築 ・移住者支援組織（NPO法人等）の設置
	(3) 移住やその後の仕事・住まいの支援	・空き屋バンクの創設 ・土地の利活用に関する調査・検討 ・遊休農地の利活用に関する調査・検討
	(4) 専門性を有する人材の移住・定住支援	・生涯活躍のまち（石垣版CCRC）の導入 ・地域おこし協力隊の導入 ・福祉実習生（保育士・介護士等）の受入れ支援

図2 石垣市の移住・定住支援施策

出所：「石垣市移住・定住支援計画」より筆者作成

石垣市は、補助金などの助成メニューや空き家バンクなどの制度は揃えるが、それ以外の業務は民間に任せるという方針をとっており、移住体験ツアーや移住相談会の開催など移住・定住促進に関連する業務は、一括してゆんたくガーデンに委託している。

## 3. ゆんたくガーデンの移住・定住支援活動

### (1) ゆんたくガーデンの設立と石垣市との関係

ゆんたくガーデンの代表理事であるO氏は、東京都新宿区の出身で、沖縄県宜野湾市を経て2011年8月に石垣市に移住した。O氏は、移住前から「時の旅人PROJECT」という会を主催し、神奈川県逗子市でビーチクリーンやトレッキング、自然観察会など逗子の自然環境に触れる活動を展開していた。移住直後は島に知人も少なく住民と知り合うきっかけもなかったため、SNSで移住者の会開催を呼び掛け

たところ 15 名が集まった。「時の旅人 PROJECT」にはこの時の参加者も加わり、当初 30 名程度だった会員数も 100 名余りとなり、2012 年には名称を「ゆんたくガーデン」に変更した。

石垣市からの委託を受けて移住・定住の支援を行うきっかけとなったのは、沖縄県が移住・定住促進事業として 2016 年から 2018 年にかけて実施した「地域の世話役養成塾（以下、養成塾）」に 0 氏が参加したことである。この養成塾には、0 氏とともに現在ゆんたくガーデンの理事を務める Y 氏を含む 4 名が派遣された。養成塾が終了した 2017 年 2 月に石垣市から 0 氏に業務委託の打診があり、2018 年 4 月の一般社団法人への法人化を経て、2018 年 10 月に移住体験ツアーのプロポーザルに応募して採択された。養成塾への市民の派遣は、石垣市の支援計画の移住コンシェルジュ養成のための取組みの 1 つであり、市は養成塾を修了した 0 氏と Y 氏が理事を務めるゆんたくガーデンに移住コンシェルジュとして移住者と地域をつなぐ役割を期待しており、2019 年からは移住体験ツアーに加えて石垣市の移住・定住支援に掛かる幅広い業務をゆんたくガーデンに委託している。

## (2) ゆんたくガーデンの活動

ゆんたくガーデンは、「自然保護部」「文化保護部」「移住定住部」の 3 つのセクションで活動を行っている。自然保護部の主な活動は、「しまみん紙芝居」を通じた八重山の紹介である。文化保護部では、石垣島の島言葉を普及・継承し、島言葉を通じた石垣島や八重山の風土・文化を伝える「スマムニ（島言葉）講座」を定期的に行き、受講生は「スマムニ広め隊」としてデイサービス施設などに慰問に訪れスマムニによる民話や歌の公演を行っている。「移住定住部」は、市から受託した移住体験ツアーや移住相談を中心に移住・定住支援を行うセクションで、石垣市の移住の窓口となっている。

表 1 は、2018 年度下期から 2019 年度上期までの 1 年間にゆんたくガーデンが行った、スマムニ講座などの定例の活動以外の活動をまとめたものである。会員の交流を促し石垣や八重山の文化への理解を深める活動を幅広く行っていることがわかる。現在は COVID-19 の影響で会員が集まるイベントや対面での相談などは休止しているが、6 月からは月に 2 回の頻度でリモートでの移住相談会を実施しており、東京を中心とした全国から複数の移住希望者が参加し、すでに石垣市へ移住した人もいる。

表 1 ゆんたくガーデンの活動

年度	月	活動
2018 下期	10	移住者の会「秋のBBQパーティー」開催
	11	「しまみん紙芝居」開始
	12	第1回石垣市移住体験ツアー実施
		移住者の会「年忘れ鍋パーティー」開催
	1	「平得種取祭」見学会実施
		第2回石垣市移住体験ツアー実施
2019 上期	2	スマムニ広め隊 デイサービス施設慰問
	3	新春ゆんたく会「紙芝居と三線ライブ」開催 ヨットで海の環境学習
	4	マーベアー（野底岳）登山 「移住者ウエルカムBBQパーティー」開催 西表島「船浮音まつり」のエスコート
	5	スマムニ広め隊 デイサービス施設慰問 沖縄県社協主催「白保のハーリー移住体験ツアー」コーディネート
	6	移住者交流会開催 白百合まつり「茶木みやこ&池原コーイチLive」開催
	7	「オリオンビアフェストで一緒に飲もう」開催 スマムニ広め隊「スマムニを話す大会」参加 「白保豊年祭」見学会実施
	8	第1回習慣支援機能拡大研修参加
	9	「とぅばらーま大会」見学会実施

出所：ゆんたくガーデン「石垣島ゆんたく通信」より筆者作成

移住相談に参加して移住した人は、ゆんたくガーデンの会員として登録され、移住後はゆんたくガーデンが実施する様々な活動に参加することで、石垣島や八重山の文化や歴史を知ることができる。またゆんたくガーデンの 2020 年 7 月現在の会員数は 316 名で、そのうち島民は 75 名、移住者 81 名、島外在住者が 160 名となっており、「移住者ウエルカム BBQ パーティ」をはじめとしたイベントは、移住者が他の移住者や島の住民とのネットワークを築く場として機能している。

ゆんたくガーデンが現在活動の拠点としているのは、築 80 年を超える伝統的な琉球赤瓦の古民家である。2012 年から使用しているこの家は、閑静な住宅地にあり、石垣の自然・文化を伝える建物としても親しまれてきたが、傷みが激しく、台風の際には雨漏りだけでなく床が落ちたり柱が飛んだりする危険な状態にあるため、2020 年 8 月には、市役所に、より近い地区の古民家に移転する予定である。また同時期に北部の伊土名に移住体験と研修のための施設である「知魚楽荘(ちぎょらくそう)」の開設を予定しており、移住・定住促進の支援機能の一層の充実が期待される。

## (3) ゆんたくガーデンが価値共創に果たす役割

価値共創のマーケティングでは、顧客との接点 (contact) を持ち、その接点においてツーウェイでのコミュニケーション (communication) を交わし、直接的な相互作用を通じて企業と顧客との間で共創 (co-creation) が行われ、この相互プロセスが進行して

いく中で顧客にとっての文脈価値 (value-in-context) が共創される (村松 2016)。価値を生み出すためには、共創的コミュニケーションが行われる「場」を生成することが必要であり、地域活性化においても協働力を引き出す場が成功を左右する (藤岡 2018)。

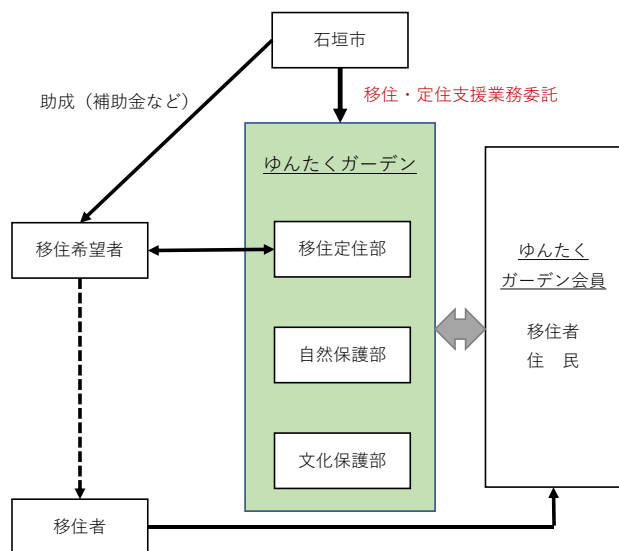


図3 石垣市の移住・定住支援の仕組み

ゆんたくガーデンは、助成メニューの情報も含めて、石垣市の移住・定住を支援するサービスをワン・ストップで提供している。また移住前後を通じて、地域とのコミュニケーションと相互作用を生み出し、移住希望者が移住を決意する価値や移住者を定着させる価値を生み出す場となっている。移住相談では、住居の紹介なども必要となるが、自治体が直接相談を受けた場合は、不動産会社を紹介するにしても公平性の観点から1社だけを紹介することはできないが、中間支援組織であるゆんたくガーデンに委託することで、移住者に寄り添ったサービスを提供する特定の企業を紹介することもできる。また初頭性効果の観点からは、移住者の先輩であるゆんたくガーデンのスタッフが、自らの経験に基づき移住者側の視点に立った支援を行うことや、移住者が移住後すぐに会員として他の移住者や住民と交流を持てることは、移住直後の価値共創を促し、定住促進にポジティブな影響を与えられ (大和 2020)。

### 【考察】

本研究では、石垣市の移住・定住を支援する中間支援組織であるゆんたくガーデンについて、S-D logic の価値共創の視点から考察した結果、①移住者に対する価値提

案と文脈価値を共創する場を生成する、②移住直後の価値共創に寄与し、定住促進に繋がる可能性を高める、という役割を果たしていることが明らかになった。

現在継続して行っている移住希望者と移住者へのアンケート調査のデータを基に、石垣市の移住・定住を促進する文脈価値について分析することが次の課題である。

### 謝辞

本研究は、JSPS 科研費 18K18280 の助成を受けたものである。ここに記して謝意を表す。また調査にご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

### 注

- 1) 地域ブランド研究所「地域ブランド調査 2019\_魅力度上位 100 市区町村ランキング」(<https://news.tiiki.jp/articles/4389>、2020 年 7 月 22 日取得) による。
- 2) 「石垣市人口ビジョン」によると、移住ブームの際の I ターン流入は、2006 年から 2007 年がピークだったが、2008 年に本籍が石垣市以外の人流出がピークを迎えていることから、移住ブーム時の移住者が定着しなかったと推測している。
- 3) 沖縄県統計資料 WEB サイト「沖縄県人口移動報告年報 年次別・市町村別推計人口の推移 (昭和 63 年以降)」(<https://www.pref.okinawa.jp/toukeika/estimates/2019/annual/top.html>、2020 年 7 月 23 日取得)。
- 4) 15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、1 人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子供の数を表わす (厚生労働省)。
- 5) 沖縄県 HP 保健医療部八重山保健所「II 総務企画班」([https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/hoken/hoken-yaeyama/somu/gaiyou/documents/03\\_soumu.pdf](https://www.pref.okinawa.lg.jp/site/hoken/hoken-yaeyama/somu/gaiyou/documents/03_soumu.pdf)、2020 年 7 月 23 日取得)。

### 【引用・参考文献】

- 1) 村松潤一 (2016) 「価値共創とは何か」村松潤一編著『ケースブック価値共創とマーケティング』同文館出版、pp. 1-17
- 2) 藤岡芳郎 (2018) 「地域活性化活動における場の生成プロセスについて 価値共創アプローチでの理論的考察」『大阪産業大学経営論集』、第 19 巻、第 2・3 合併号、pp. 25-42
- 3) 大和里美 (2020) 「竹富島の移住者価値とネットワークが果たす役割」『地域活性研究』第 12 巻